

令和6年度 皇學館中学校 入学試験問題（A日程）

国 語

問題用紙は六枚あり、問題は「一」から「三」まであります。

令和6年度 皇學館中学校 入学試験問題 (A日程)

(解答時間は50分)

国語 (その1)

注意

… 字数を指定している問題は、すべて句読点を含みます。

〔一〕次の文章を読んであとの問いに答えなさい。(ただし、出題の都合上、文章中の表現を改変した部分があります。)

今年の夏も暑かった。

冷房の室内と外の暑さの間をいったりきたりして帰路につくのだが、最後に家の前でまたどっと汗ばむ。水を大切に、省資源^A、とは思っても、やっぱりシャワーで汗を流さずにはられない。

シャワーのコックをひねり、一瞬気分がやすらぐと、シャワーにまつわるいろいろなことを突然に思いだす。人間とはヘンなもので、妙なことだけは憶えているものだ。大切なことはたいてい忘れてしまっているくせに、およそ役に立たぬ[※]デイトールだけはちゃんと記憶に残っている。

たとえば、日本と同じくらい暑かったボルネオのサバ州でのこと。そこは赤道にかなり近いのだが、気温はせいぜい三十度ほどである。日本のように三十五度になったりはしない。ある夕方、現地の人たちとテレビのニュースを見ていた。ニュースの終わりのほうでアナウンサーがこういった――「今日午後、日本の東京では気温が三十七度を越えました」。とたんに現地の人々はいっせいに叫んだ。「えーっ、三十七度？あんなたちそんなところでよく生きているなあ」。

けれど湿度は日本より格段^Bに高い。九十パーセントなどざらである。洗濯物も乾かないし、ほくらはやたらに汗をかく。

夕方、仕事から帰ってきたら、シャワーは不可欠だ。もちろんお湯ではなく水である。

ところが熱帯では、夕方の六時半ごろ日が落ちたら、(I) 気温が下がる。コタキナバルなどという大都市はべつにして、田舎^{いなか}では夜は涼しい。日本では暑くて寝苦しい夜を「熱帯夜」と呼ぶが、あれは熱帯に対して失礼である。熱帯の夜は涼しいのだ。

そのひんやりした夕方に、水のシャワーは冷たかった。ああ、暑い、早く水を浴びたい、というついさっきまでの思いもどこへやら、シャワーもそこそこに切りあげてしまうのがつねだった。冬になったらどうするんだろうと案じながら。

でもそれは要らぬ心配であった。熱帯には冬はないのである。

日本ではシャワーはたいてい風呂場にある。けれど西洋には風呂場というものはない。その上、シャワーはふう固定である。コックをひねると、水はそこらじゅうに飛び散る。そして[※]バスタブの外までビシャビシャになる。ヨーロッパの安宿に泊まると、それがいつも悩みのたねだ。

(中略)

かつて多くの家にシャワーをつけたとき、ほくは^C当然、可動式、つまりホースの先にシャワー口のついた、自由に動かせるものにした。

Y ぼくの家に遊びにきたスリランカ人の留学生はそれを見るなりこういった――「なぜ固定にしなかつたんですか?」。万事がイギリス流のスリランカでは、それが「当然」だったのである。② どうやら文化や伝統というものは、直接には「利便さ」と関係がないものらしい。むしろ「利便さ」は、その使いかたによるのであって、それも含めて文化が成り立っているのだろう。

フランスで「新式」のシャワーを自慢していた人もいた。「昔のみたいに、二つのコックでお湯と水を調整するのではなく、この一つのコックをまわしていけば、だんだん熱いのが出るようになってるんだ」。

ところがそれは (II) ものだった。コックをひねるには、固定式のシャワーの下に立たねばならない。そしてコックをひねると、まず水が出る。急いでコックを右にまわすと、たしかにだんだんお湯になっていく。けれどしばらくは冷たいのをじつとがまんしてはならない。それはちょうど真冬だったので、これにはかなりの辛抱が必要だった。そして浴びおわって最後にコックをしめるとき、水はふたたび冷水になってから停まるのであった。

ご自慢の主人にこのことを話したら、こういわれた――「最後に冷たい水を浴びるのが健康に良いのだ」。

こんな (III) 「シャワーでの思索」のとき、いつも疑問に思うのは、どうやら日本人はシャワーというものを Z らしい、それはなぜだろうか? ということである。

そもそも「シャワー」という概念がないらしい。シャワー (shower) とは元来「にわか雨」とか「驟雨」のことである。こ

国語 (その二)

れにあたる語はほかのヨーロッパ語にもあるが、日本語では「雨」という字がついていて、雨の一形態という概念になっている。しかし shower は shower rain ではなく、一つの独立した単語である。

日本では古来、滝に打たれる修行がおこなわれてきた。だから、上から降ってくる水を浴びて、身や心を清めるといふ思いも行為も存在していたのである。けれど、水を引いてきて細かい穴をもった口につなぎ、雨のように降らせてそれを浴びる、つまりいわゆるシャワー式のもものは、ついに発明しなかったように思われるのだ。

ちゃんと調べてみたわけではないから、これは (IV) ぼくの印象にすぎないが、同じように湿度が高くて、毎日のように水浴び (マンディーなど) をする東南アジアでも、シャワーは発明していないようにみえる。タイの風呂場ではそのための専用の仕切りがあり、そこに水を貯めておく。そして手桶でその水を汲んで体にザアッとかけるようになっていた。

西洋式のシャワーの起源も調べてはいないが、シャワーの発明は昔から興味のある問題であった。

(日高敏隆「春の数えかた」より)

〔注〕※ディテール：くわしいことや細かいこと。

※バスタブ：浴槽、または湯船。中に水か湯を入れ、入浴する際に用いる。

問1 部A～Dの漢字の読みをそれぞれひらがなで答えなさい。

問2 空欄 (I) ～ (IV) に最も適する言葉を、次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア あくまで イ とんでもない ウ たちまちにして エ とりとめもない オ かるうじて

問3 空欄 X、Y に最も適する言葉を、次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア あるいは イ さて ウ ところが エ なぜなら オ だから

問4 部①「とたんに現地の人々はいっせいに叫んだ」とありますが、その理由として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 遠く離れた東京が、熱帯である現地と同じほどに暑いとは思ってもみなかったから。
イ 東京は開発が進んでいて、至るところで冷房が効いていると思いきんでいたから。
ウ ふだんは現地のニュースばかりで、東京の情報にふれる機会があまりなかったから。
エ 熱帯ではない東京が、現地よりも高い気温に達していることを知っておどろいたから。

問5 部②「どうやら文化や伝統というものは、直接には「便利さ」と関係がないものらしい」とありますが、この内容を説明した次の文中の空欄 (a)、(b) に適する言葉を本文中からそれぞれ五字以内で抜き出して答えなさい。

《筆者にとっては (a) のシャワーのほうが便利だと思われるが、万事がイギリス流のスリランカ人の留学生にとっては、伝統的な (b) のシャワーを使うことがあたりまえだと考えている。》

問6 空欄 X、Y に最も適する表現を、空欄 Z よりもあとの本文中から七字で抜き出して答えなさい。

問7 部③「シャワーの発明は昔から興味のある問題であった」とありますが、筆者は「シャワーの発明」について考えるうえで、日本におけるどのような事例に注目していますか。本文中の言葉を使って五十字以内で説明しなさい。

〔二〕次の文章を読んであとの問いに答えなさい。(ただし、出題の都合上、文章中の表現を改変した部分があります。)

やっと、茶筌(抹茶をたてる時、茶をかき回すための道具。)で茶をかき混ぜる時がきて、少しホツとした。
 (いくらなんでも、茶筌でかき混ぜる時くらいは、自由にさせてくれるだろう)

① 私は張り切つて、茶筌をシヤカシヤカシヤカ細かく振つた。

「あ、あまり泡あわをたてないのよ」「え?」

意外だった。だって、抹茶といえば、カプチーノのようにクリーミーに泡立っているではないか。

「細かい泡をこんもりたてる流派もあるんですけど、うちは、あまり泡はたてないの。泡がきれて、三日月形に、水面みなもが見えるように点たてなさい、っていうのよ」

先の広がった茶筌で、いったいどうやって、泡あわに覆おおわれた水面に「三日月形」を残すというのだろうか? まるで、剣豪小説に出てくる達人の「技」ではないか。

「武田のおばさん」が十五分ほどでやったお点前てまえに、私は一時間以上もかかった。もっとも、自分ではその倍に感じたほどだった。水屋の床に、足を投げ出し、しびれきった指を折り曲げて、(I) 来るむず痒がゆさにのたうっていると、

「これも慣なれなのよ。いまに何時間でも平気で正座できるようになるわよ」

何時間もなんて、とても信じられなかった。

そのとき「武田のおばさん」が言った。

② 「典子ちゃん、どう? 今やったこと、どのくらい覚えてるか、お点前もういっぺん、通してやってごらんなさいな」「……」

足はまだ (I) しているけれど、「どのくらい覚えているか」と言われると、対抗心が (II) 頭をもたげた。

学校の成績は、まあまあだった。記憶力は悪くないつもりだ。運動神経は鈍にぶいけど、代わりに、手先は器用だとよく言われた。

「お茶」なんて、たかが、カビくさい稽古事けいこじでしょ。そんなのチョロいわよ。結構Aデキるところを見せて、「武田のおばさん」から「あら、あなた、結構スジがいいじゃない」って、一目置あかれよう。

そんな欲もちょっとあった。

「はい、もう一回、やってみます」

ところが……。

歩けない。どこに座ればいいのかわからない。どっちの手を出せばいいのかわからない。何を持つのか、どう持つのか……。手も足も出ないのだ。

できることなど、一つもなかった。ついさっきやったばかりのことなのに、何一つ残っていないかった。

(ほら、できないでしょ? これもできないでしょ?)

一つ一つ、念を押されているみたいだった。一から十まで指示されて、Xのように動うごけなかつた。

「カビくさい稽古事」と、高Bをくくつていたくせに……。なにが「スジがいい」だ……。

「チョロい」はずのものに、まるで菌がたたなかつた。学校の成績も、今までの知識も常識も、ここでは一切通用いっさいしなかつた。

「そんなにすぐ覚えられたら大変よ」

慰なぐさめるような口調で微笑ほほえんだ「武田のおばさん」の、(III) した着物姿が、なんだか手の届かない遠くに見えた。

(いつかこの人のように、流れるようなお点前ができる日が、来るのだろうか?)

③ その時から、「武田のおばさん」は「武田先生」になった。

そして、私の目からウロコが一枚、(IV) 落ちた。

(高をくくつてはいけない。ゼロになって、習わなければ……)

ものを習うということは、相手の前に、何も知らない「ゼロ」の自分を開くことなのだ。それなのに、私はなんて邪魔なも
 のを持ってここにいるのだろう。心のどこかで、「こんなこと簡単よ」「私はデキるわ」とYいた。私はなんて
 慢心まんしんしていたんだろう。

つまらないプライドなど、邪魔なお荷物でしかないのだ。荷物を捨て、からっぽになることだ。からっぽにならなければ、
 何も入いってこない。

(気持ちを入れかえて出直さなくてはいけない)

心から思った。

④ 「私は、何も知らないのだ……」

(森下典子「日々是好日」より)

国語(その四)

問1 空欄(I) (IV) に入る言葉の組み合わせとして、最も適するものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア	I	じんじん	II	ワクワク	III	パリッと	IV	ハラハラと
イ	I	ぐんぐん	II	ムクムク	III	カリッと	IV	スーッと
ウ	I	じんじん	II	ムクムク	III	キリッと	IV	ポロリと
エ	I	ぐんぐん	II	ワクワク	III	サクッと	IV	コツンと

問2 〰〰部A、Bの意味として最も適するものを、次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- A 一目置かれよう
 ア さらにかわいがってもらおう
 イ 反抗心をかき立てよう
 ウ 少し驚かせてやろう
 エ 優れた点を認めてもらおう

B 高をくくって

- ア 大したことはないと思きびって
 イ 用心深く落ち着いて
 ウ できれば関わりたくはないと思って
 エ 興味を感じることができないで

問3 空欄 X、Y に最も適する言葉を、次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

X	∴	ア	紙飛行機	イ	操り人形	ウ	豆 ^{まめ} つぶ	エ	金魚
Y	∴	ア	願をかけて	イ	腰 ^す を据えて	ウ	首を長くして	エ	斜 ^{しゃ} に構えて

問4 〰部①「私は張り切って、茶筌をシャカシャカシャカ細かく振った」とありますが、それはなぜですか。その理由を本文の表現を使って答えなさい。

問5 〰部②「典子ちゃん、どう？ 今やったこと、どのくらい覚えてるか、お点前もういっぺん、通してやってごらんなさいな」とありますが、これを聞いた「私(典子)」は、どのような心情だったと考えられますか。最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 「お茶」の作法の事細かさにうんざりして、今後、もう二度とお点前をしたくないという気持ち。
 イ 自分が持ち合わせている能力を発揮し、「武田のおばさん」を少し見返してやろうという気持ち。
 ウ 「お茶」という営みに意義を感じないが、一つの区切りとしてお点前をつとめようという気持ち。
 エ 自分がこれまで長年積み上げてきた「お茶」の修行のすべてを出し切ろうと、覚悟を決めた気持ち。

問6 〰部③「その時から、「武田のおばさん」は「武田先生」になった」とありますが、なぜ「武田のおばさん」から「武田先生」へと呼び方が変わったのですか。本文の内容をふまえてわかりやすく答えなさい。

問7 〰部④「私は、何も知らないのだ……」とありますが、このときの「私」の思いを五十字以内で説明しなさい。

国語（その六）

問8 次に挙げる和歌の〈上の句〉に続く〈下の句〉として適するものを、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

〈上の句〉： 大江山 いく野の道の 遠ければ

- ア 富士のたかねに 雪は降りつつ
- イ 知るも知らぬも あふ坂の関
- ウ 名こそ流れて なほ聞こえけれ
- エ まだふみも見ず 天の橋立

問9 次のア～エの——部のうち、他と用法が異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 明日は担任の先生が来られる予定だ。
- イ ふと昔のことが思い出される。
- ウ 何も心配されることはありません。
- エ 応募を希望される方がたくさんあった。

問10 次のア～エのうち、言葉づかいとして適切でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア おそらくそれは何かの思い違いだろう。
- イ もし天候が回復すれば、運動会は開催します。
- ウ 健康状態はまったく問題ないと思っっています。
- エ 幸運にも成功するとはまさか予想通りだった。

令和6年度 (A日程)

国語 解答用紙

三						三						三							
問7	問6	問4	問3	問2	問1	問7	問6	問5	問4	問3	問2	問1	問7	問6	問5	問4	問3	問2	問1
	①	①	①	①	①					X	A						X	I	A
問8										Y	B						Y	II	B
	②	②	②	②	②														
															b				
問9																			
	③	③	③		③													III	C
問10																		IV	D
	④	問5																	
																			める

受験番号
得点